

乳癌に対する放射線治療

乳癌は女性の癌罹患数第1位であり、癌死亡数では第5位の疾患です。

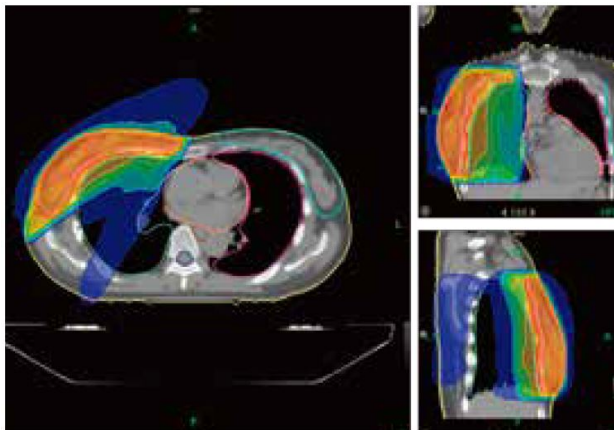
現在では女性14人に1人は乳癌に罹患すると言われており、年間1万3000人程が亡くなっていると考えられています。

乳癌の特徴の一つとして再発しやすいことが挙げられます。乳癌の治療法として第一は手術ですが、術後治療を何も行わない場合手術5年後の局所再発率はⅠ期で10%程度、Ⅱ期で15%程度、Ⅲ期で30-50%程度であることが知られています。

術後早期に放射線治療を施行することで、乳癌局所再発率を10-20%程度減らすことが分かっており、乳癌診療ガイドラインでも乳房温存術後の放射線治療は標準治療の一つとして明記されています。具体的な症例を提示します。

■具体的な症例

症例は50代女性、右乳癌に対して当院乳腺外科にて乳房温存手術施行しました。抗がん剤治療を数コース施行後、術後放射線治療目的のため紹介受診しました。放射線治療は50Gy/25回にて施行されました。以下に具体的な放射線治療の図を示します。



50代女性、右乳がんに対し
50Gy/25回にて施行

〈図5：乳がんに対する放射線治療〉

照射範囲内には皮膚炎等の副作用を認めず、外来通院にて治療は無事終了しました。現在まで再発なく、お元気で過ごされています。

その他、乳房切除後の方でも放射線治療の適用になる場合があります。